

島嶼の持続可能な観光地経営の研究

— おおいた姫島の魅力とジオパーク —

A Study on Sustainable Small Island Tourism

Case Study: Oita Himeshima Geopark

七 枝 敏 洋

NANAEDA Toshihiro

Abstract

Himeshima Village in Oita Prefecture (hereafter referred to as Himeshima) is a remote village island floating on the northern tip of the Kunisaki Peninsula in the Oita Prefecture. The ruins of the volcano, the sandbar, and the ecosystem resulted in the “mysterious island created by the volcano.” Himeshima, which was designated as a Japanese Geopark in 2013, has a beach with granitic sand and a beautiful view of the sea. The more tourists visit Himeshima, the more people use village boats and know the local products, pay for accommodation and consume tiger prawns, all of which generate income from outside the island. In other words, more visitors and overnight guests translates into more of Himeshima’s specialty products being sold and consumed on the island; as a result, money flows in from outside the island that has a ripple effect on the local economy. Therefore, it is important to enhance the consolidated effects of production, processing and sales, which are characteristic of the tourism industry.

1. はじめに

(1) 姫島村

大分県東国東郡姫島村（以下、姫島）は九州北東部、瀬戸内海の西端、国東半島の北端に浮かぶ面積 6.99 km²の一島一村の離島である。姫島は、約 30 万年前からの火山活動が生み出した土地が時間をかけ 4 つの小島となり、砂州でつながったひとつの島である。火山の跡、砂洲の産業、生態系が「火山が生み出した神秘の島」を表出している。海域を含む東西 14km、南北 6km が 2013 年に日本ジオパークに認定され、2022 年には日本ジオパークネットワークの加盟更新が認定された。

姫島村の人口は 1991 人、879 世帯（2015 年国勢調査）であり、1995 年からの 20 年間で人口の 33.5 %が減少した過疎化が進む島である（注 1）。村の基本理念等は「海を活かした健康で活力ある村づくり」、「水産業と観光の村づくり」、「人情味あふれる豊かな島づくり」であり、健康、海と観光とホスピタリ

ティの魅力が島外に発信している。産業は第3次産業が61.6%と増加する中、第1次産業も24.7%を占めている。第1次産業は沿岸漁業と車えび養殖が中心である（姫島村の概況、2021年）。

姫島の2019年の観光客数の累計は36,559人であり、その内日帰り客数が29,247人（80.0%）と多く、宿泊者数は観光客数の約2割程度である。飲食等の消費が期待できる宿泊観光客数が7千人程度では観光による収入は限定的といえる。水産業と観光の村づくりには観光と産業の連携効果が期待される。

尚、本研究における観光の定義は、1969年の観光政策審議会の答申による「観光とは、自己の自由時間（余暇）の中で、鑑賞、知識、体験、活動、休養、参加、精神の鼓舞等、生活の変化を求める人間の基本的欲求を充足するための行為（レクリエーション）のうち、日常生活圏を離れて異なった自然、文化等の環境のもとで行おうとする一連の活動をいう」とする。

(2) 本研究の目的と調査方法

温帯・亜熱帯の島嶼部の海辺は人気の高い観光資源になっている。海辺を目的とする観光は海水浴、スキューバダイビング、ヨット、ウィンドサーフィンなどのウォータースポーツ、食事、宿泊、移動、土産品の購入などの消費を伴い、天然自然や文化観光資源に比べ、訪問者が繰り返し訪問する経済効果が期待できる（Sonya Graci, 2012）。しかしながら、小規模な島々は消費物資の調達やその費用、上下水道、ゴミ処分の制限があり、旅行者の行動による地域社会や文化への影響も報告されている（Bruno Sarrasin, 2013）。持続可能な観光が2004年に国連世界観光機構（UNWTO）により提唱され、その指標の中に観光開発に関する環境、経済、社会文化的な側面も含まれている（注2）。

本研究ではおおいた姫島ジオパークの魅力の要素を踏まえ、インフラストラクチャーを調査し、姫島の社会経済面での持続可能な観光地経営に向けて論じることを目的とする。

2. 島嶼の観光地経営

地域の人口減少が日本全国で進む中、移住促進と交流人口や関係人口づくりは地域の活性化や地域経済で重要な施策となっている（注3）（注4）。中でも観光交流がもたらす観光収入と雇用の創出は、地方の活性化の切り札として期待されている（注5）。このような中、島嶼部で、住民のひとりあたりの収入（GDP）に観光が経済的に寄与するか検証するために、小規模島嶼国家（51ヶ国）等を対象に地域経済への寄与項目を集計し、重回帰分析を行った結果は次の通りであった（注6）。

ひとりあたりのGDPの高い島嶼は外部からの直接投資高と外部への支払高も大きい、貿易が盛んな島嶼であった。このような島嶼では、観光が経済を牽引しているとはいえない。観光と経済の関係は、観光は地域経済を下支えする関係といえ、観光を地域経済に活かすには地域から輸出できる技術や特産品の開発とそれらの周知に観光という手法を活用し、地域内で消費させるといった関係が重要といえる（注7）。

姫島は村営船を2隻所有している。観光客数の増加は村営船の利用者を増やし、宿泊者は宿泊料を支払う。車エビの販売高は地域外からの収入の獲得である。即ち、来島者や宿泊者が増え、姫島の特産品が島内で消費され、また島外に販売されることにより地域外からの資金が流入する。島嶼部の観光波及効果を地域経済に及ぼすためには、観光産業の特徴である生産・加工・販売の連結効果を高めることが重要である。

(1) 姫島の観光資源

(社)日本観光振興協会「観光の実態と志向」(2015年度調査)によると、日本人が希望する旅行の種類(複数回答による集計)は温泉を楽しむ(53.5%)、自然の風景や季節の花見を楽しむ(44.3%)、食を楽しむ(43.9%)、歴史文化的な名所を訪れる(30.3%)、海水浴やマリンスポーツを楽しむ(4.2%)、海辺のリゾートライフを楽しむ(4.2%)、その他スポーツ活動を楽しむ(2.2%)、自然環境の保護・保全に対する意識を高める(0.4%)であった(注8)。志向する上位に文化観光活動も多い。

これらを姫島にあてはめると、拍子水温泉、30万年前の地形・地層、飛来蝶アサギマダラ、車エビ、かれい、鯛、タコ、貝、海藻などの新鮮な水産物、19世紀前半に建築された古庄家、姫島海水浴場・キャンプ場があげられ、キャンプ場に隣接する姫島運動公園では野球、テニス、ゲートボールコートを始めとする多目的グラウンド、広場、駐車場が整備されていて、日本人旅行者が志向する観光資源や素材が揃っている。

(2) 姫島の観光に関する公共インフラとキャリングキャパシティ

住民の生活環境は、電気を九州電力がケーブルを敷設していて、簡易水道、公共下水道が100%整備されている。人口減少(人口2998人、1998年)があり、観光客の宿泊を含めても現人口の1.5倍の3000人程度の対応が可能と考えられる。

姫島村の財政規模は約19億円であり、観光に関する公共インフラとして、村営フェリーを2隻所有し国東半島の伊美港と姫島を1日12便、20分間で結んでいる(2021年)。姫島港にはヨットやクルーザーを係留することができる。島内移動は、エコカー(超小型電気モビリティ)、レンタサイクルがあり、無料巡回バスも提供されている。島内には25か所に及ぶ公衆トイレと多目的トイレが備わっていて、観光客だけでなく住民も安心して屋外活動を楽しめる。

3. 姫島の観光地経営の可能性

調査を終えて、現在の観光及び地域振興策の可能性について述べる。

(1) 海辺の観光資源と宿泊者の増加

姫島には、全長500mに及ぶ姫島海水浴場がある。元来砂地であった砂浜を整備したもので、花崗岩質の砂と海が美しい。海水浴場には管理棟、トイレ、シャワー室、駐車場、3棟の休憩所がある。休憩所では宿泊も可能で、指定された場所ではバーベキューも楽しめる。夏の繁忙期や祭りの時期には宿泊者が長期間滞在しやすいようにオートキャンプ場を整備し収容宿泊定員を増やせば、村営船の利用も増え、宿泊者数も増える。旅館や民泊では海水浴場やログハウスに滞在する人へのケータリングサービスが提供できれば料飲の売り上げ増加が見込まれる。また、海浜リゾートの品質の良さに波静かで水質が良いことが挙げられる(注9)ので、水質の公表が島内外での信用とイメージ向上になるであろう。姫島海水浴場は南側に浜辺が面していて、サンセットコンサート等も可能である。



姫島のビーチ



「姫島エコツーリズム」の小型モビリティ

(2) 文化観光資源や素材の拡充

「時と自然の希跡ジオパーク天一根（あまのひとつね）」の展示室には、姫島の誕生から自然、歴史、文化、産業、生態系までを展示している（注10）。姫島の自然、地質、地形の展示に加え、地域住民の生活と生業を伝える。姫島の産業や社会面では、塩田から車えび養殖の転換、資源管理型漁業、期節定め（注11）、魚付林（注12）や姫島盆踊り、空き缶のデポジット制度の取り組み、村内全域の光ファイバー網とケーブルテレビの整備を行ってきた。これまで「本土並みの生活」を目指してきており「光」、「水」、「医療」という離島（注13）が直面する3つの課題解決の歩みの足跡等は島の文化資源（注14）と言えよう。



時と自然の希跡ジオパーク 天一根（あまのひとつね）



黒曜石の展示

(3) 体験型プログラムの整備

トレッキングコースの整備、手ぶらでの釣りの体験型プログラム、サーフィン、ブルーツーリズム（漁師宅民泊）などの検討も考えられる。

(4) イベント交流事業の充実

梅まつり、おさかなまつり、ビーチバレー大会、姫島トライアスロン大会等のイベントが開催されて

いる。マラソン大会や合宿、海水浴場でのサンセットコンサート、日本ジオパークネットワーク会議、地質学会等の会議の誘致は宿泊の機会となると考えられる。

国土交通省が進めている2拠点居住についても、ITアイランドセンターとしての企業誘致に着手し2社の誘致に成功している（注15）。ITアイランドセンターの勤務者によるパソコン講習による村民との交流は、ITアイランドの住民である中高生教育に資する。他にも、通信制高校の誘致、島留学の展開が考えられる。

(5) 幅広い観光関連産業の取り組み

新鮮な魚介類を料理で競う“姫島鍋”の開発や郷土料理コンテストの開催が考えられる。第一次産業の農業、姫島牛などの復興による食品等の調達力を高めることは、観光による地域経営で重要である。姫島盆踊りは地域外から観光客を呼ぶ人気の高い祭りである一方、宿泊施設は定員の制限がある（宿泊人数129人、瀬戸内海国立公園大分県姫島）。展示やキャンプ場やオートキャンプ場の整備、海水浴場の休憩施設での宿泊、郷土料理の提供などとはできないものだろうか。

4. 結びに代えて

姫島は約30万年前の火山活動により4つの小島が誕生し、砂州でつながった一島一村の島であり、2013年に日本ジオパークに認定されている。自然や自然科学の探究者から子供連れの親子まで、地質や地形の成り立ちをひとつの島でコンパクトに学ぶことができる。「時と自然の希跡ジオパーク天一根（あまのひとつね）」には、自然、歴史、文化、産業、生態系が展示されており、姫島のエコツアー（注15）の導入施設として相応しい。姫島にある全長500mの美しい姫島海水浴場は、花崗岩質の砂と海の青さと夕日のコントラストが美しい。シャワー室、休憩所等がありバーベキューも楽しめる。

姫島では魚付林（注12）、塩田から車えび養殖への転換、資源管理型漁業“期節定め”（注11）など、島民の生活の知恵を多く見つけることができる。姫島盆踊りなどの祭り、空き缶デポジット制度、光ファイバー網の整備等は離島が抱える課題解決への取り組みの成果であり、これらの足跡は島の観光文化資源になる（注14）。姫島を訪れ、約30万年前に生み出された地球の自然、歴史と文化、産業に触れば多くの人が姫島に魅了されるであろう。

あとがき

この調査は令和3年度おおいた姫島ジオパーク調査研究助成を受けて研究を行った。姫島ジオパークの調査を計画している時、動物作家で著名な椋鳩十先生の「不思議な石と魚の島」という本に巡り合った。椋先生の丁寧な調査に基づく作品は常に登場人物の世界に誘ってくれる。「不思議な石と魚の島」は姫島を舞台にしていることを知った。また椋先生は私が属していた鹿児島西ロータリークラブの会長経験者で、会長在任中の1年間を通してユニークな卓話をされたことがクラブで語り継がれている。

「不思議な石と魚の島」の中で椋先生は、姫島を「石が成長している島がある」と紹介されている。ナウマンゾウの化石、藍鉄鋼、黒曜石の存在は姫島が大陸とつながっていたこと示し、平和に住む姫島の人々が限られた離島の地域資源と向き合い、漁業管理、魚付林に取り組み、外部からの観光開発の抑制を通して、将来の住民の生活を守った島民の知恵が記されている。

「不思議な石と魚の島」を椋先生が著されたのは、椋先生が鹿児島県立図書館館長時代、島嶼部の執筆を計画中に大分県の図書館長が姫島村を紹介されたことに始まるようだ。椋先生は姫島を何度も調査に訪れ、島民の皆さんと懇親を深められた。筆者が調査の訪問の際、物語の登場人物である海岸寺の阿部泰明ご住職とご子息にお会いでき、椋先生の執筆時の貴重な原稿や写真を拝見でき、お話を伺うことができたことは望外の喜びであった。

この調査にご協力頂いた姫島市役所の小島安国課長他職員の皆様、企画振興課おおいだ姫島ジオパーク推進協議会天一根（あまのひとつね）の堀内悠さんに御礼申し上げる。

引用・参照

(注1) 姫島村の概況（2021年5月1日）

(注2) 持続可能な開発目標 SDGs エス・ディー・ジーズとは。2022年2月10日閲覧。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

(注3) 関係人口の作り方、地域を支援する1800万人市場「トラベルジャーナル」2021年7月5日号、pp.8-17。

(注4) 「地域にとって、観光客がもたらす観光収入と雇用の創出は、地方の活性化の切り札として期待されている。」観光まちづくり研究会編集「新たな観光まちづくりの挑戦」ぎょうせい2004年12月、p.3。

(注5) 「日本の周辺部・島嶼地域での人口の社会現象は、一部を除いて、戦前から継続している構造的なパターンである。」という。嘉数啓「島嶼学 Nissology」古今書院、2019、p.263。

(注6) 島嶼部のひとりあたり GDP に対する重回帰モデル

小島島嶼開発途上国 (SIDS: Small Island Developing States) を中心に対象とした、ひとりあたり GDP (国際世界統計 2019) を従属変数とし、観光に関する経済指標の重回帰分析を行った。 $GDP = -0.867 \times \text{年間平均気温} + 0.538 \times \text{海外からの直接投資額} + 0.433 \times \text{最低平均気温} + 0.623 \times \text{国際収支支出 (100万ドル)} - 0.341 \times \text{国別レジャー支出 (100万ドル)} - 2.16 \times \text{国民送金支払済み額} + 0.196 \times \text{輸出額 (100万ドル)} - 0.163 \times \text{人口} + \text{残差}$ となった。項目間の共線性は見られず、調整済み R2 乗値は 0.717 で、有意確率は $p < 0.05$ である。有意確率を $p < 0.1$ に広げると、到着人数、国際観光収支高、国際観光到着者数が含まれる。

地域住民の GDP に寄与する収入項目は第一に直接投資と収支支出の高さによる対外貿易の大きさであるといえる。観光は有意確率 ($p > 0.1$) において、地域の特産品輸出を下支えする関係といえる。島嶼経営において観光は、観光者が特産品を島内で消費し、特産品を観光客に知ってもらう機会となる。留意すべきは島嶼の旅行者数の増加は地域経済への寄与項目となっておらず、観光消費の直接効果ではないということである。比治山大学短期大学部紀要第 57 号、2022 年 3 月発行。

(注7) 嘉数啓 (2019) は「島嶼経済は二、三の商品を移輸出し、おおよそあらゆる商品を移輸入している。その結果は、慢性的な商品貿易収支の赤字である」という。嘉数啓「島嶼学 Nissology」古今書院、2019、p.55。

(注8) 「(実際の) 旅行先での行動」((社) 日本観光振興協会) によると、温泉を楽しむ (31.3%)、食を楽しむ (30.8%)、自然の風景や季節の花見を楽しむ (29.4%)、海辺のリゾートライフを楽しむ

む (3.2%), 海水浴・マリンスポーツ (3.0%), その他スポーツ (3.8%), 登山やトレッキングを楽しむ (2.5%) であった。(社) 日本観光振興協会「観光の実態と志向」2015 年度版。

(注 9) 宍戸学ら「観光概論第 11 版」株式会社 JTB 総合研究所, 2019, p.133。

(注 10) 「おおいた姫島ジオパーク拠点施設 - 時と自然の希跡ジオパーク天一根 (あまのひとつね) -」のリーフレットから。

(注 11) 漁師が自分たちで魚や海藻をとる時期, 期間, 魚種や漁法などを細かく決めた「期節定め」を作り, 乱獲を防ぎながら漁を行うようになった。堀内悠, 国東半島宇佐地域世界農業遺産『「魚が付く林」不思議な童話は島の歴史』

<https://www.kunisaki-usa-giahs.com/news-column/meguru/1550/> 2022 年 9 月 12 日閲覧。

(注 12) 魚付林に期待される効果は①栄養塩供給, ②有機物供給, ③直射光からの遮蔽, ④飛砂防止, が挙げられる。白岩孝行「魚附林の地球環境学—親潮・オホーツク海を育むアムール川—」昭和堂, 2011 年, P164。

(注 13) 昭和 32 年に離島振興法, 37 年に辺地, 45 年には過疎法の適用を受け, 漁港・港湾の整備と漁業資源の保護育成等, 漁業の振興を図り, 「本土並みの生活」を目指して村民生活の向上と社会資本の充実に力を注いだ結果, 「光」, 「水」, 「医療」という離島が直面する三つの課題をほぼ解決してきた。姫島村「姫島村の概要 (2021 年)。」

(注 14) 「観光者の文化的文脈と地元民の文化的文脈とが会うところで, 各々独自領域を形成しているものが本来の文脈から離れて, 一時的な観光の楽しみのために, ほんの少しだけ売買される」のが観光文化開発の本質であり, ホスト (地元) とゲスト (観光客) の相互接触によって新たに形成されるのが観光文化である。橋本和也・佐藤幸男編『観光開発と文化—南からの問いかけ—』世界史思想社, 2003 年, pp54-82。

(注 15) 「とくにグリーン, ブルーツーリズムのメッカ, 竹富町と渡嘉敷村への本土からの純流入は過去 12 年間 (2000 年~2012 年) に群を抜いて高い (p.152)。「観光に次ぐ沖縄のリーディング産業として情報通信産業 (ICT) が注目されて久しい。(中略) 2015 年までに 387 の ICT 会社が立地し, 2 兆 6000 億円の観光収入に次ぐ, 沖縄のリーディング産業に成長した。嘉数啓「島嶼学 Nissology」古今書院, 2019, p.152-154。

(注 16) 「自然環境や歴史文化を体験しながら学ぶとともに, その保全にも責任を持つ観光のあり方をエコツーリズムと呼ぶ」環境省, 財団法人日本交通公社編集「エコツーリズム さあ, はじめよう!」平凡社, 2004 年, p.10。

七枝 敏洋 (総合生活デザイン学科)

(受理 2022 年 10 月 27 日)